



これからも家族のための「町のケーキ屋さん」であり続けたいと思います!



Q. 創業はいつですか。  
A. 昭和38年です。

Q. 洋菓子というのは今でこそメジャーではありますが、ケーキ屋を営もうと思ったきっかけは?  
A. そうですね。高砂でケーキ屋を開業したのはウチが初めてですね。私は昭和16年生まれなんですが、私が小さい頃は甘いものあまりなく、甘いものが食べたくてしようがなかったんです。それで、何か甘いものの商売をしたら…という考えがずっとありましたね。

Q. 最近では女の子の将来の夢でケーキ屋さんになりたいというのが多いようですが。  
A. そうですね。トライするやうの受け入れをさせていただいていますが、8割くらいは女の子ですね。実際、子供さんを預かるとわかるんですが、包丁を持てない子が多いですね。ですから3人だけ引き受け、付きっきりで教えています。

Q. お店は長妻さんのほかに息子さんと息子さんの奥様がいらっしゃるんですね。  
A. そうです。うちの商売はみんな手作りで、材料から作っていくので時間も手間もかかります。商品の製作については息子夫婦がいろいろと話をしながらやってますし、家内もあれこれ手伝ってくれています。

Q. 長妻さんも職人でいらっしゃいますので、息子さんに1から10まで口を出されてるんじゃないかなと想像してたんですが、そうではないですよと息子さんからお話を伺いました。あまり口出しはなさらないですか?

A. やはり職人の世界というのは親子でもよく衝突するものなんですよね。息子が大学を出てから店を継ぐといったときに、せめて12~13年は外で修行して来いといいました。それから店を継ぐというのなら、やればいいと…。譲るというときには、お互い職人であっても、やはり時代が違つてくると、自分が引いていかないと仕方がない。だから、一歩下がって、相談に乗るという感じですね。

Q. 先日お店にお伺いした際、息子さんなどお父様ですか?ときいてみたら、辛抱強い、我慢強い人との答えが返ってきました。さらに尊敬しますとはっきり。息子さんご夫婦がお店に立たれてるのをどんな風にご覧になってるのですか。

A. そうですね。彼らが楽しく話をしながらしますから、私は後ろに下がろうかと。

Q. ちなみに長妻さんご自身は結婚何年目ですか?

A. もうすぐ銀婚式です。

Q. ケーキ屋さん=誕生日ですよね。因みにご家族の誕生日にはケーキをお作りになりますか。

A. 結婚した当時は嫁の分は作ってましたけどね。結婚する時、家内は一生ケーキが食べられると言ってましたね。

Q. 今はデコレーションケーキといつても本当にいろんなケーキがありますね。

A. はい。非常にたくさんの種類のケーキがあります。キャラクターものも人気ですが、今はアンパンマンとかだけでなく、なんとかレンジャーとか難しくなってます。他にも立体的なものならピアノとか…四角くピアノの形のケーキにして、鍵盤を作ったり。後はゴルフ好きな人にゴルフ場を作ったり。お父さんがトラックの運転手だからトラックを作ってくれとか。子供さんだけじゃなく、いろんな方たちのイメージに合わせて作っています。

Q. お客様の要望にすべてお応えしてくれるんですね。

A. はい。高砂なら祭りのやっさの形をつくってくれともありますよ。一年に一度。いつまでに…と注文の日を決めてやります。

Q. ケーキ屋さんを営んでいくうえで一番気をついていることは何ですか。

A. 口に入るものの上で、何より衛生面に一番気をつかっています。お陰様で兵庫県衛生協会から25年事故が無いということで表彰していただきました。

Q. やっぱり甘いものは好きですか?

A. 今はどちらかというとお酒のほうが好きです。3月過ぎたらそろそろビールですね。

Q. それではお休みの日は家でゆっくりと…奥様といふ時が一番リラックスされますか?

A. 家内にはリラックスしたいから黙つといてくれ、とお願いします。

Q. 最後に皆さんに一言。

A. 皆さんのお顔を見ましたら、何人かお店に来ていただいている方もおられます。これからもどうぞナガツマのケーキをよろしくお願いします。



## 店舗情報



(有)ナガツマ洋菓子店  
<http://www.nagatsuma.jp/>

住所:高砂市荒井町蓮池3-5-5  
TEL:079-442-4227  
営業時間:9:30~20:00  
定休日:第3火曜日

## 公開インタビューへ参加したい&自分のお店を知ってもらいたい方は是非ご連絡ください!

皆さん、お店や店主の事、少しあは知っていましたでしょうか。誌面にはほんの一部しか掲載できず、公開インタビューではもっと深~いお話をいっぱい!! 是非お店に足を運んでいただき、店主や商品の魅力に触れてみてください。

なお、当部会ではこれからもこの事業を行ってまいりますので、次回の公開インタビューには是非会場にお越しください。

また、「ウチの店を知ってもらいたい!」「こんな商品あるんやで!」等、自分のお店を紹介したい〇〇屋さんはご連絡下さい。

(応募者多数の場合は、こちらにて決定させていただきます。ご了承ください。)

# 商業部会 Vol. 02

## もっと知りたい! あの店!この人!通信

2018.7.1 発行

目次

インタビュー紹介

(有)伊保モータース

(株)下村商店

(有)ナガツマ洋菓子店



写真:中央(公開インタビュー前の一コマ)

インタビュー前の部会員の方々。緊張されています。

写真:左・右(インタビュー中の一コマ)

終始和やかな雰囲気で進みました。



## 5/15 第2回公開インタビュー実施しました!

去る5月15日(火)、高砂商工会議所 大会議室におきまして、商業部会「もっと知りたい!! あの店! この人!」第2回公開インタビューを実施しました。

近年、大規模店舗が数多く出店されるなか、市内にはたくさん頑張っている個店があり、その個店の魅力を多くの皆さんに知っていただきたいとの思いから、この事業を行うこととなりました。

昨年の11月に続き、第2回目となる今回も部会員の中から3名の“〇〇屋さん”にお越しいただき、お店の事からプライベートまでインタビュー形式でいろんな事をお聞きしました。

インタビューは前回に続いて当所会員T.C.C.ほっとすまいるの村角美紀さん。楽しいインタビューの模様を下記に掲載しておりますので、どうぞご覧ください。



インタビュー  
する人

村角美紀

T.C.C. ほっとすまいる 代表

高砂商工会議所会員/高砂商工会議所青年部所属  
ブライダル・イベント司会  
マナー講座・話し方レッスン講師

## 商業部会について

高砂商工会議所では、会員様が営んでいる主要な事業の種類ごとに、7部会が設置されています。

そのなかで商業部会は、各種商品の卸売業、小売業等を営む約330会員が所属する部会です。それぞれの部会が、事業の適切な改善発達を図るために、部会事業を積極的に展開しています。

商業部会においては、高砂の魅力ある個店を広く発信し、地域商業の発展を図るために、今回のインタビュー事業を実施しました。

今後も会員相互の発展につながるような事業を企画していきますので、引き続きご協力の程、よろしくお願いいたします。



## 連絡先

高砂商工会議所 商業部会事務局 担当:中村/澤田  
兵庫県高砂市高砂町北本町1104 TEL.079-443-0500 FAX.079-442-0369 HP.<http://www.takasago-cci.or.jp/>

# 伊保のバイク屋さん

(有)伊保モータース  
中野 博一 氏



末長く、バイクを楽しんで下さい！

Q. 創業はいつですか。

A. 60年前の私が5歳のときに先代の父が小さい店を出し、それからです。主にホンダの二輪をずっと扱っております。ホンダの2輪といえばスーパーカブですが、昭和33年に販売され、ちょうど60年になります。創業と同じ歩みということになり、何か運命的なものを感じております。

Q. 社名が伊保の伊保モータースさんですが、地元密着という感じのお店ですか。

A. 地元にも有名バイク屋さんがありまして、その次の次ぐらいかな…という気がしますけれども。社名の由来はモータース屋やから、モータースに地元の「伊保」を付けたらしいんじないかということで。

Q. お話をうかがってて真面目そうだという印象があるんですが、ご自身ではいかがでしょうか。

A. まあ、僕は自分の事がちょっと不器用だなと思います。先代の父から受け継いだ性格かもしれませんけれども…。父も言っておりましたが、いろんなバイクのメーカーもいいが、ホンダを売りたいんだと。

Q. ちなみに、中野さんはバイクに乗られますか。

A. 実際私はバイク屋でありながら高校の間はほとんど乗らなかつたんですが、それではまずいなと思い、大学に入ってすぐに4輪と2輪両方の免許を取り、乗るようになりました。しかし当時はまだツーリングというのが盛んではなく、23~24歳のころ「遠乗り」をされている集まりを弟と二人で見に行ったりしました。

Q. ところで、ご結婚はいつぐらいにされたんですか。

A. 自営業といえば一般的には30歳を越さんことには一人前とは言えないといわれまして、結局35、36歳に結婚しました。ですから自分の娘もまだ28歳ぐらいです。



Q. 結構ベテランさんになられてからのご結婚だったんですね。

A. そうですね。子供が出来ても孫という感じがしましたね。

Q. 奥様はバイクに乗られますか。

A. いやいや、うちの家内はスポーツが好きで、特にスキーが好きですね。バイクで1度出かけたんですが転びまして、それからは『嫌や!』といわれて、絶対に乗ってくれないですね。

Q. 中野さんの趣味は何ですか。

A. 小さいころからいろいろ習い事をしておりまして、ピアノとかたくさんさせられましたが全く身につかず、結局13年ぐらい前から知り合いのつながりで民謡をする機会があり、以前から音楽は好きなので、カラオケに行ったりとかしてたんですが…。一回民謡を聴いたんですね。(しみじみ) 50歳ぐらいのときに、家のことや店のこととかいろいろなことがありました、そんな時に民謡を聴いたら自分もやってみたいなど…。

Q. それでは、なかなかのベテランになっていらっしゃいますね。

A. いやいや、そんなこともないんですが。地元の発表会に出させていただいたりとかしています。

Q. 例えばどういう歌を歌われるのですか。

A. 尺八の歌と三味線の歌があるので、もちろん地元の祭りの歌もうたいます。

Q. 祭りの歌もあるんですね！

A. はい。2年ほど前に神事があり、その時には何回も何回も練習して、なんとか…。ですので、今日は勘弁してください。

Q. やはり声の伸びがやっぱり必要になるんですね。

A. 祭りでも、やっぱり声を出さないと屋台があがらないんです。腹の底から声を出して、力を振り絞ってあげるという感じですね。

Q. 最初の節だけでも。どんな感じですか。

A. 築後の酒造り唄があります。それじゃあ、ちょっとだけ…えんやあー、ええー、という感じで。(工工声～～) (場内 大拍手)

Q. 無茶な振りだったのはわかつっていましたが、最初にぐっと人をひきつける声というのはやっぱりすごいですね。

A. 地元の盆踊りなどで会の方が昔からやっておられた唄なんですが、三味線とか生で演奏があって唄えるというのが、とても気持ちいいですね。

(場内) 伊保モータースさんならではのサービスを教えていただけますでしょうか。

A. 私共が常々考えておりますのは、末永く乗っていただくことです。父親の頃からのお客様、その次の世代となる今のお客様、またその次の世代の方にも、バイクに乗っていただき楽しんでもらうということが一番だと思います。バイクの良いか悪いかは、十年ぐらいたないとわからないんですよ。部品が十年たつたらこれぐらい減る、そういうのがわかつてこの整備業です。ネットなどのうわっ面の知識だけではなく、実際に長年バイクに触ってこそ、ようやく技術が身についてくる。そこを引き継いでいかないと、事業というのは続かないと思います。そういう地道なものの考え方をし、きちんととした知識を持って、それをお客様に発信していかたらと思います。

Q. 皆様には末永くバイクを楽しんでいただきたいということで、伊保モータース 中野博一様でした。

A. ありがとうございました。

## 店舗情報



(有)伊保モータース  
<http://www.ihomotors.co.jp/>

住所:高砂市伊保崎南9-18  
TEL:079-447-0693  
営業時間:9:00~19:00  
定休日:水曜日

# 高砂のあなご屋さん

(株)下村商店  
下村 晋平 氏



店員さん募集中です!!高砂焼あなごをよろしく!

Q. 下村商店さんといえば皆さんで存じない方などいらっしゃらないほどのお店だと思いますが、創業はいつですか？

A. 昔は農人町で魚屋をしてたんですけど、あまり儲からなくて。私の祖父が軍人で日露戦争に従軍した時に仕えた上司に相談したら、ひとつに特化した商売をしていったらどうないや、と勧められて。1905年頃戦争から帰ってきて、その頃高砂はあなごがたくさん捕れてましたんで、焼きあなごをはじめたと聞いております。

Q. 魚屋からあなご屋さんに特化されたということですね。昔と比べて現在変わった所はありますか。

A. 15年ぐらい前にはあなごがたくさん獲れすぎてどうないしようかというぐらいだったんですけど、10年ぐらい前の明石海峡大橋が出来たぐらいから獲れなくなってきた…。今は輸入物に切り替えてがんばっているところです。

Q. ご商売で心がけていらっしゃることはありますか？

A. できるだけ朝は早く起きて、仕入れたものを見ながら、どういった風に仕上がっていかを最後までずっと見ながら、いつも同じものが提供できるように心がけています。

Q. 何時ごろ起きられるのですか。

A. 4時半です。今は仕事をする前に一時間ウォーキングするようにしています。よくパトカーに声かけられたりするんです。

Q. あなご屋さん以外になりたかった職業は。

A. 大学卒業する時点では、旅行社に勤めたいと思っていたんです。旅行が好きなんで。それでもまあ、家で配達とか手伝いはしていたんですけども。

Q. それでは、仕事としてはあなご屋さん一筋? アルバイトとかは?

A. そうですね、デパートに勤めたりとかしてましたね。デパートで塩昆布を売ってました。

Q. お休みの日は?

A. ぼーっとしてるか、あとは一人でドライブに行ったりとか。

Q. 奥様とは一緒にどこかに出かけたりとかはしないんですか。

A. 寅さんの映画が好きで、葛飾柴又、一度見に行こうかとこの間一緒に新幹線に乗って日帰りで行つたんですけども。時刻表を見て電車の旅とか好きですね。車で行くこともあるんですが、列車でビールを飲みながらちょっと遠出するのも好きです。

Q. ほかに何か趣味はありますか。

A. プロレスを見に行くのが好きです。会場の雰囲気が好きで…若い人が一生懸命やっていて、その頑張ってる子が、何年かしてメインを張るようになりますね。途中で挫折してしまう子もいたり、いろいろあるんですけど、そういうのを見るのが好きですね。



Q. 「あなご」といえば高砂、高砂といえば「あなご」ということで、「あなご」に関する団体があるそうですが。

A. この4月に組織改編をして「高砂あなごマーケティング研究会」というのをもう一度立ち上げました。高砂に来て、あなごを食べていただくということを目的に料理屋さんと組んで町歩きなどをされている方にお店を紹介したりしています。これから工楽邸が新しくリニューアルして、町を歩く方が増えると思うのであなごのお店も堪能していただいたらと思います。

Q. どんなお店がありますか。また下村さんはどんな役割をされてるんですか。

A. アナゴパイを作つておられるところもありますし、お寿司にされていました。私は会長をさせていただいております。

(場内) 加古川や明石に下村商店というあなご屋さんがたくさんありますが、一族何人ぐらいでされているんでしょうか？

A. もともとの代表者が私の祖父になりました。みんな私のいとこで親父の兄弟になります。分かれたのが、私が聞いた限りでは祖父が亡くなったのが昭和36年なので、その頃から別に商売をするようになったそうです。今では、その次の孫の代がまた商売をしています。

(場内) 下村商店のお店のたれについて、企業秘密だと思いますが、教えていただける範囲でご紹介いただけたら…。

A. しょうゆ、料理酒とみりんが主ですけれども、つけるごとにたれにあなごの味が出ると思うんで、ずっと昔から同じたれを使つていています。ただし、誰が休んでも同じ味が出せるようにはしています。レシピも一応あるんですけど、それぞれのバランスだと思います。

Q. 最後に一言

A. どこかに行かれるときには、是非あなごをお土産に持つていっていただき、「高砂のあなご」を広げていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

## 店舗情報



(株)下村商店  
<http://www.bb.banban.jp/simomura/>

住所:高砂市高砂町北本町1172  
TEL:079-442-0124  
営業時間:6:00~16:00  
定休日:日曜日(だいたい隔週)